

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2020年9月14日
【四半期会計期間】	第48期第2四半期（自 2020年5月1日 至 2020年7月31日）
【会社名】	株式会社石井表記
【英訳名】	ISHII HYOKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 石井 峯夫
【本店の所在の場所】	広島県福山市神辺町旭丘5番地
【電話番号】	084(960)1247(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部 副本部長 松井 忠則
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市神辺町旭丘5番地
【電話番号】	084(960)1247(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部 副本部長 松井 忠則
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期 連結累計期間	第48期 第2四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 2019年2月1日 至 2019年7月31日	自 2020年2月1日 至 2020年7月31日	自 2019年2月1日 至 2020年1月31日
売上高 (千円)	4,591,906	5,034,585	10,368,079
経常利益 (千円)	7,563	274,259	212,467
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	78,286	247,632	105,274
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	138,826	181,300	72,892
純資産額 (千円)	2,844,833	3,156,240	3,056,551
総資産額 (千円)	12,657,463	12,538,641	12,257,259
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	9.60	30.37	12.91
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.5	25.2	24.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	475,633	1,252,101	369,013
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	526,487	275,103	759,737
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	517,634	171,592	31,185
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,236,094	2,188,804	1,411,162

回次	第47期 第2四半期 連結会計期間	第48期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年5月1日 至 2019年7月31日	自 2020年5月1日 至 2020年7月31日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	11.12	35.22

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による事業への影響については、今後も注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態および経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け緊急事態宣言が発出されるなど、経済活動が制限され景気は急速に後退しました。

緊急事態宣言解除後は、経済活動のレベルを段階的に引き上げておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念や終息時期が見通せないことにより依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の移動制限に伴う営業活動の停滞、客先における設備投資延期など、事業活動に影響を受けましたが、中国関連事業では現地経済活動の再開により一部で回復が見られました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は50億34百万円（前年同期比9.6%増）となり、営業利益は2億61百万円（前年同期比206.5%増）、経常利益は2億74百万円（前年同期比3,526.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億47百万円（前年同期は78百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（電子機器部品製造装置）

プリント基板分野では、新型コロナウイルス感染症の影響により、顧客の設備投資延期や営業活動縮小を余儀なくされる状況となり、前年同期と比較し売上高は減少いたしました。

液晶関連分野におきましては、中国において渡航制限により影響を受け期ずれしたインクジェットコーターの一部を当第2四半期連結会計期間に売上計上したこと、また、中国顧客の操業再開に伴い消耗品販売が増加したことなどから前年同期と比較し売上高は増加いたしました。

その結果、売上高は16億81百万円（前年同期比46.4%増）、営業利益は1億83百万円（前年同期は1億39百万円の営業損失）となりました。

（ディスプレイおよび電子部品）

アミューズメント向け部品分野の売上高は、当社得意先の生産増加の影響により、前年同期と比較して増加いたしました。

自動車向け印刷製品についても、新規顧客向けの生産がスタートしたことにより前年同期と比較して売上高が増加いたしました。

工作機械および産業用機械分野については、新型コロナウイルス感染症の影響により顧客の需要が減少したことに加え、営業活動も制約を受け前年同期と比較し売上高が減少いたしました。

連結子会社であるJPN, INC. は、当第2四半期連結会計期間よりフィリピン国内の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い操業制限など事業活動に大きな影響を受け、前年同期に比べ減収減益となりました。連結子会社である上海賽路客電子有限公司については、中国経済の再開に伴う需要の増加から売上高が前年同期を上回ったことや、新型コロナウイルス感染症に対する助成金を受給したことなどから前年同期に比べ増収増益となりました。

その結果、売上高は33億48百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は78百万円（前年同期比65.2%減）となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ2億81百万円増加の125億38百万円となりました。

流動資産は、70億92百万円となり前連結会計年度末と比べ1億55百万円増加いたしました。これは受取手形及び売掛金が4億5百万円減少しましたが、現金及び預金が6億69百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、54億46百万円となり前連結会計年度末と比べ1億26百万円増加いたしました。これは投資その他の資産が62百万円、有形固定資産が47百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べて1億81百万円増加の93億82百万円となりました。

流動負債は、56億23百万円となり前連結会計年度末と比べ25百万円増加いたしました。これは、支払手形及び買掛金が4億21百万円、流動負債その他が2億31百万円それぞれ減少しましたが、前受金が7億23百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は、37億58百万円となり前連結会計年度末と比べ1億56百万円増加いたしました。これは長期借入金が2億9百万円減少しましたが、リース債務が2億14百万円、その他の固定負債が1億38百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

純資産は、31億56百万円となり前連結会計年度末と比べ99百万円増加いたしました。これは剰余金の配当を81百万円実施したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を2億47百万円計上し、利益剰余金が1億66百万円増加したことなどによるものであります。この結果自己資本比率は25.2%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ7億77百万円増加し、21億88百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は12億52百万円（前年同期比163.2%増加）となりました。主な増加要因は税金等調整前四半期純利益2億76百万円、減価償却費2億17百万円、前受金の増加額7億23百万円、売上債権の減少額3億82百万円であり、主な減少要因は仕入債務の減少額4億4百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は2億75百万円（前年同期比47.7%減少）となりました。主な減少要因は有形固定資産の取得による支出2億2百万円、無形固定資産の取得による支出1億38百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億71百万円（前年同期は5億17百万円の獲得）となりました。主な増加要因はセール・アンド・リースバックによる収入1億35百万円であり、主な減少要因は長期借入金の返済による支出2億22百万円、配当金の支払額81百万円であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は77百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,644,909
計	31,644,909

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年7月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年9月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,176,452	8,176,452	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	8,176,452	8,176,452	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年5月1日～ 2020年7月31日	-	8,176,452	-	300,000	-	8,693

(5) 【大株主の状況】

2020年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
石井峯夫	広島県福山市	1,908	23.40
石井敏博	広島県福山市	615	7.54
イシイヒョーキ従業員持株会	広島県福山市神辺町旭丘5	553	6.78
楽天証券(株)	東京都港区南青山2丁目6番21号	322	3.95
河原栄	広島県府中市	186	2.28
石井幸蔵	広島県福山市	167	2.04
石井博幸	広島県福山市	161	1.97
青山理	広島県福山市	145	1.78
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	144	1.77
石井朋子	広島県福山市	138	1.69
計	-	4,341	53.24

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,300	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,145,400	81,454	同上
単元未満株式	普通株式 7,752	-	-
発行済株式総数	8,176,452	-	-
総株主の議決権	-	81,454	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式400株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

【自己株式等】

2020年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)石井表記	広島県福山市神辺 町旭丘5番地	23,300	-	23,300	0.28
計	-	23,300	-	23,300	0.28

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年5月1日から2020年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年2月1日から2020年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,630,282	2,299,604
受取手形及び売掛金	2,702,087	2,296,243
商品及び製品	111,920	159,773
仕掛品	1,626,360	1,524,799
原材料及び貯蔵品	607,504	612,924
その他	258,861	198,777
貸倒引当金	173	-
流動資産合計	6,936,843	7,092,123
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,317,946	1,245,078
土地	2,170,813	2,155,595
その他(純額)	1,205,229	1,340,692
有形固定資産合計	4,693,989	4,741,365
無形固定資産		
その他	404,221	420,073
無形固定資産合計	404,221	420,073
投資その他の資産		
その他	280,419	343,120
貸倒引当金	58,215	58,041
投資その他の資産合計	222,204	285,078
固定資産合計	5,320,416	5,446,518
資産合計	12,257,259	12,538,641
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,844,394	1,422,872
短期借入金	1,219,811,113	1,219,977,874
1年内返済予定の長期借入金	2413,000	2400,000
未払法人税等	113,797	90,119
前受金	389,821	1,113,545
賞与引当金	20,582	15,365
その他	835,980	604,183
流動負債合計	5,598,689	5,623,960
固定負債		
長期借入金	2,277,000	2,256,700
退職給付に係る負債	512,736	524,463
その他	313,281	666,976
固定負債合計	3,602,018	3,758,439
負債合計	9,200,707	9,382,400

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,000	300,000
資本剰余金	1,107,799	1,107,799
利益剰余金	2,030,281	2,196,381
自己株式	20,002	20,081
株主資本合計	3,418,077	3,584,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,351	5,316
為替換算調整勘定	371,471	429,690
退職給付に係る調整累計額	14,296	7,148
その他の包括利益累計額合計	361,526	427,857
純資産合計	3,056,551	3,156,240
負債純資産合計	12,257,259	12,538,641

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
売上高	4,591,906	5,034,585
売上原価	3,465,479	3,818,415
売上総利益	1,126,427	1,216,170
販売費及び一般管理費	1,041,225	955,016
営業利益	85,202	261,153
営業外収益		
受取利息	3,098	5,213
受取配当金	367	331
為替差益	6,551	6,901
受取賃貸料	14,227	10,007
助成金収入	4,970	42,302
その他	5,051	5,676
営業外収益合計	34,266	70,432
営業外費用		
支払利息	27,538	28,132
シンジケートローン手数料	62,040	-
減価償却費	15,785	15,581
その他	6,540	13,612
営業外費用合計	111,904	57,326
経常利益	7,563	274,259
特別利益		
固定資産売却益	306	2,787
特別利益合計	306	2,787
特別損失		
固定資産売却損	-	318
固定資産除却損	9,197	31
特別損失合計	9,197	349
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,327	276,698
法人税等	73,116	29,065
四半期純利益又は四半期純損失()	74,443	247,632
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,842	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	78,286	247,632

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	74,443	247,632
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,513	965
為替換算調整勘定	70,396	58,218
退職給付に係る調整額	11,526	7,148
その他の包括利益合計	64,382	66,331
四半期包括利益	138,826	181,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	140,035	181,300
非支配株主に係る四半期包括利益	1,209	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,327	276,698
減価償却費	206,015	217,974
貸倒引当金の増減額(は減少)	54	347
賞与引当金の増減額(は減少)	5,009	4,723
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	17,990	4,595
破産更生債権等の増減額(は増加)	19	-
受取利息及び受取配当金	3,466	5,544
支払利息	27,538	28,132
有形固定資産売却損益(は益)	306	2,469
有形固定資産除却損	9,197	31
シンジケートローン手数料	62,040	-
売上債権の増減額(は増加)	482,754	382,052
たな卸資産の増減額(は増加)	581,103	34,161
仕入債務の増減額(は減少)	63,691	404,788
未払金の増減額(は減少)	102,397	45,512
前受金の増減額(は減少)	815,153	723,724
その他	240,574	121,298
小計	622,739	1,316,092
利息及び配当金の受取額	3,466	5,544
利息の支払額	27,558	28,215
法人税等の支払額	123,014	41,319
営業活動によるキャッシュ・フロー	475,633	1,252,101
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	225,704	202,586
有形固定資産の売却による収入	306	26,136
無形固定資産の取得による支出	180,570	138,202
投資有価証券の取得による支出	1,199	1,198
貸付けによる支出	-	1,000
貸付金の回収による収入	-	81
定期預金の預入による支出	109,360	57,035
定期預金の払戻による収入	-	107,530
その他	9,960	8,827
投資活動によるキャッシュ・フロー	526,487	275,103
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	809,527	1,532
長期借入れによる収入	3,341,960	-
長期借入金の返済による支出	3,604,000	222,000
リース債務の返済による支出	1,141	1,567
配当金の支払額	40,766	81,532
非支配株主への配当金の支払額	5,618	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	28,000	-
セール・アンド・リースバックによる収入	45,673	135,119
自己株式の取得による支出	-	79
財務活動によるキャッシュ・フロー	517,634	171,592
現金及び現金同等物に係る換算差額	23,061	27,765
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	443,718	777,641
現金及び現金同等物の期首残高	1,792,375	1,411,162
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,236,094	2,188,804

【注記事項】

(会計方針の変更)

(I F R S 第16号「リース」の適用)

当社グループの在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間より I F R S 第16号「リース」を適用しております。本会計基準の適用により、借手のリース取引については、原則、使用権資産およびリース負債を認識するとともに、使用権資産の減価償却費とリース負債に係る支払利息を計上しております。

本会計基準の適用にあたっては、経過的な取扱いに従って、本会計基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

これにより、当第2四半期連結会計期間末における有形固定資産その他が129,574千円、流動負債その他が1,871千円、固定負債その他が130,954千円増加しております。なお、四半期連結損益計算書に与える影響額は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の移動制限に伴う営業活動の停滞、客先における設備投資延期など、事業活動に影響を受けております。新型コロナウイルス感染症の終息時期については、概ね2021年1月期中を想定しており、2022年1月期には経済状況は改善に向かうと仮定し、会計上の見積り(固定資産の減損等)を行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響については不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、将来における当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 コミットメントライン契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関4行とコミットメントライン契約を締結しております。当第2四半期連結会計期間末におけるコミットメントライン契約に係る借入金未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
コミットメントライン総額	2,500,000千円	2,500,000千円
借入金実行残高	1,800,000	1,800,000
差引額	700,000	700,000

2 財務維持要件

上記のコミットメントライン契約および当社のタームローン契約(前連結会計年度末残高 長期借入金2,776,000千円、1年内返済予定の長期借入金413,000千円、当第2四半期連結会計期間末残高 長期借入金2,567,000千円、1年内返済予定の長期借入金400,000千円)については、財務制限条項が付されており、以下のいずれかの条項に抵触した場合、本契約上の全ての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。

- (1) 各事業年度の末日における借入人の、連結および単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日における借入人の連結および単体の貸借対照表における純資産の部の金額の75%以上にそれぞれ維持すること。
- (2) 各事業年度にかかる連結および単体の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ2期連続して経常損失としないこと。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
貸倒引当金繰入額	54千円	345千円
給与賞与	347,864	333,843
賞与引当金繰入額	2,518	5,615
退職給付費用	15,229	8,435
減価償却費	40,100	45,070
販売手数料	16,391	13,499
試験研究費	105,044	77,166

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
現金及び預金勘定	2,345,454千円	2,299,604千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	109,360	110,800
現金及び現金同等物	2,236,094	2,188,804

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年4月24日 定時株主総会	普通株式	40,766	利益剰余金	5.00	2019年1月31日	2019年4月25日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年4月24日 定時株主総会	普通株式	81,532	利益剰余金	10.00	2020年1月31日	2020年4月27日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電子機器部 品製造装置	ディスプレ イおよび電 子部品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,148,614	3,437,727	4,586,341	5,565	4,591,906	-	4,591,906
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,148,614	3,437,727	4,586,341	5,565	4,591,906	-	4,591,906
セグメント利益又は損失 ()	139,400	226,376	86,975	1,773	85,202	-	85,202

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメント及び付随的な収益を獲得するに過ぎない構成単位であります。

2. セグメント利益又は損失()の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電子機器部 品製造装置	ディスプレ イおよび電 子部品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,681,240	3,348,578	5,029,818	4,767	5,034,585	-	5,034,585
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,681,240	3,348,578	5,029,818	4,767	5,034,585	-	5,034,585
セグメント利益又は損失 ()	183,232	78,802	262,034	880	261,153	-	261,153

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメント及び付随的な収益を獲得するに過ぎない構成単位であります。

2. セグメント利益又は損失()の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないか、四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	9円60銭	30円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	78,286	247,632
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	78,286	247,632
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,153	8,153

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年9月10日

株式会社石井表記

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮本 芳樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 康治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社石井表記の2020年2月1日から2021年1月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年5月1日から2020年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年2月1日から2020年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社石井表記及び連結子会社の2020年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。